

庇腕木受け金物好評

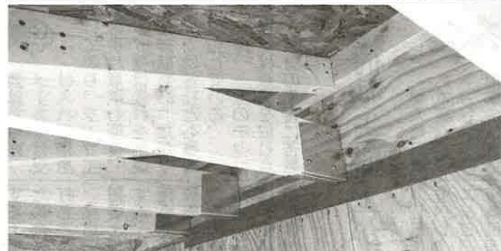
金物の多様化への対応目指す

山菱工業

山菱工業（大阪市、河端豊社長）は、2×4金物の設計、施工性、強度試験まで提案し、1.5数万個単位で生産し必要な数量を配送している。自社生産により、徹底した品質管理と安定供給が同社の強みになっている。同社は2×4金物大手専門メーカーで、日本住宅・木材技術センター認定のCマーク・x（クロス）マーク表示金物、スチールハウス協会認定のSマーク表示金物に加えてオリジナル金物を製造。特殊性や高品質といった製品ニーズに応えられる商品開発をしている。

同社は今春、タルキ（離家）の距離が狭やトラスと上棟、頭つくなっていることかなさの接合に使用する「軒のない住宅が増」「軒ゼロ用あおり止め」を考案している。このため「金物」を発売した。従「あおり止め金物を外壁」とは異なり、最近「あおり止め金物を内壁住宅の外観を大きく見」から取り付ける。しかせるほか、特に都市部し、接合部での石膏ボ

関西・四国版



「ドやタルキ転び止め」しており、同社は「軒ゼロの干渉が課題になっ」口用あおり止め金物」を開発し、干渉のない施工を可能にした。軒ゼロ用あおり止め金物（YHT）のSPF材の短期許容耐力（KN）は、あおり止め金物（TS）の2・7を上回る3・3になる。上棟と頭つなぎには、国産材2×4部材のシェア

好評の庇腕木受け金物

拡大に合わせ杉材を使用するが、同社は2×4工法専門に特化して、在来工法への特化している。また、2年前に発売した「庇腕木受け金物」が好評だ。通常は、面材と干渉するが、同社は面材の上から施工し後付けできる自由度が利くのが特徴だ。樹種や仕様変更の試験が必要であり検討している。

同社は今後、ホールダウン金物など非住宅への対応、金物の多様化とともに在来工法への転用など金物の汎用性の広がりを目指す。